

かんぽ不正営業で多くの人に処分

郵政の体質改善は急務

6月30日2448人、7月29日573人に処分が発令されました。処分は年内で終わらせず来年にかかる可能性もあるとしており、今後も続くようです。

この中には過大なノルマとパワハラ、上司の指導で行ったのに処分ですから、犠牲者といえます。もちろんお客さんが最大の犠牲者であり、郵政の信頼を失墜させたことに変わりありません。

一昨年4月、NHK「クローズアップ現代」で不正営業が報じられました。それ以前から苦情が寄せられていたのに対応しなかったのです。その時点で現場の声や郵政ユニオンの指摘に対応していればこうはならなかったのです。

現場の窓口担当者は

ひたすら謝罪の日々

職場のAさんは「6月に研修が行われました。内容は今までやってきたことの繰り返しで新しく作成されたお客様に配布するリーフレットも殆ど変わっていません。会社は『社長交代で責任をとった。方針もでたのだから、社員は前を

向け。お客様第一』の号令をかけていますが、それでいいのか疑問です。今もひたすら謝罪を続ける現場の社員、その苦労に本社は理解し社員の信頼回復にも努めるべきです」と言っています。



職場からのメール

3年前から始まったメルカリが激増しています。当初は少なかったものの、今や1日に500個になっています。配達も大変ですが、郵便部も宛名をつくり、その荷物に貼り付ける作業まで行うのに何時間もかかります。仕事量はドンドン増えているのに報酬は上がらない郵政の賃金。現場の労働者に報いるようにしてほしい。

新しい社長は「下の意見が上に通る風通しのよい職場をつくる」としています。それが言葉倒れにならないよう郵政ユニオンは求めておきます。

また、職場からものを言う労働組合が必要です。一緒に頑張っていきましょう。

自粛の夏に一言

例年だと夏は海、山、キャンプに出かけます。しかし、新型コロナウイルスの感染拡大防止のために都や県を超える外出は自粛されています。まとまった休みをとって出かけたたくても出かけられません。

今年はコロナで特別かもしれませんが、今年だけでなく毎年自粛せざるをえない人が郵政でも増えています。賃金が安くて旅などできない、外食もできない、映画もいけない、服は何ヶ月も買っていない・・・やっぱ賃上げで普通の生活ができるようになるしかない！